

## 中国におけるソーシャルワーク教育の現状と課題\*

金 文 華\*\*

### Trends and Issues of Social Work Education in China

Jin WenHua

#### キーワード

中国、ソーシャルワーク教育、ソーシャルワーカー、  
ソーシャルワーカー養成、ソーシャルワーカー資  
格制度、民政部

#### はじめに

中国におけるソーシャルワーク教育は1949年新  
しい中国が誕生してから間もなく1952年大学教育  
における社会学学科の消失を持って中断された。  
1980年代後半、市場経済への移行を目前に社会問  
題が続出されるなか、ソーシャルワーク教育が再  
開された。その背景には社会矛盾を調整、緩和す  
る役割の期待があつてソーシャルワークが新たな  
学問として注目されはじめたのである。それから  
10数年の緩やかな発展を経て、現在中国における  
ソーシャルワーク教育は急速な発展を見せている。  
最近中国では党の幹部が会議でソーシャルワーク  
の重要性と必要性を取り上げたり、新聞メディア  
でも度々報道されるなど社会的に注目が集まって  
いる。また、200を超える高等教育機関がソーシ  
ャルワーク教育課程を設けるとともに、2006年つ  
いにソーシャルワーカー資格制度が整備される等そ  
の本格化が始まろうとしている。一方、社会の発  
展とともに都市化、少子・高齢化、農村と都市部  
の格差の一層拡大するなか、新たなニーズが次々  
と生まれソーシャルワークに対して様々な課題を  
突きつけており、残された課題も少なくない。

そのため、本論文では中国におけるソーシ  
ャルワーク教育の現状、直面している問題点を探るこ  
とを目的とする。中国のソーシャルワーク教育も  
欧米諸国から理論、技術を取り入れ展開している  
ため、土着化等が課題となっているなど日本と共  
通の問題を多く抱えている。中国のソーシャルワ  
ーク教育の現状、抱えている問題を分析することで  
日本の社会福祉士養成教育にも新たな示唆を与え  
る可能性がある。

#### 1. 中国におけるソーシャルワーク教育の発展に ついての概観

中国におけるソーシャルワーク教育は欧米諸国  
の影響を受け、1920年代燕京大学等に設置された  
社会学部によって展開され、1949年まで一定の発  
展をもたらした。しかし、1920年代から1940年代  
までのソーシャルワーク教育は独立した学部と専  
門とは言えず、社会学部への所属性が明らかであ  
った。

1949年新しい中国が誕生してから旧ソ連をモデ  
ルとして社会主義建設を始めていた中国において  
資本主義産物である社会学の必要性が疑問視され  
るようになり、1952年とうとう各大学の社会学部  
は廃止に追い込まれるのである。それをもって中  
国におけるソーシャルワーク教育も同時に中止さ  
れた。

1980年代後半、経済改革の進展とともに社会矛  
盾が顕在化するなか、北京大学、中国人民大学、  
吉林大学等にソーシャルワークと管理学科が設置  
されソーシャルワーク教育は再開された。その背  
景にはソーシャルワークの社会矛盾を調整、緩和  
する役割の期待があつた。しかし政治、社会環境  
の未成熟、一部のソーシャルワーク教育機関の教  
職員が学生運動に参加するなどの影響もあり、そ  
れから10数年ソーシャルワーク教育は緩やかな発  
展を見せた。2000年頃から経済体制の市場経済へ  
以降、改革の進化などにより社会問題が噴出する  
なか、中国におけるソーシャルワーク教育は急速  
な発展を見せている。全国のソーシャルワーク教  
育機関はすでに250カ所に上るとともに、2006年  
にはついにソーシャルワーカー資格制度も整備さ  
れたのである。

#### 2. 中国におけるソーシャルワーク教育の実態

##### (1) ソーシャルワーク教育機関

今のところ中国のソーシャルワーク教育は主に  
4年制大学がその主な役割を担っている。1986年  
国家教育部が北京大学、中国人民大学、吉林大学

\* Received January 31, 2009

\*\* 長崎ウエスレヤン大学 現代社会学部 社会福祉学科、Faculty of Contemporary Social Studies, Nagasaki  
Wesleyan University, 1057 Eida, Isahaya, Nagasaki 854-0081, Japan

等一部の大学が社会工作と管理学科の設置を認めて以来、1990年代はその増加が緩やかだったものの2000年以降は急速な拡大を見せている。表1のとおり現在全国の200を超える大学でソーシャルワーク教育課程を設けている。それに3年制の専科大学、専門学校などを含めるとその数は240～250カ所にも上る。

表1 ソーシャルワーク教育課程の設置が許可された4年制大学の数

年	新 設 数	累 計
1999		28
2000	27	55
2001	36	91
2002	35	126
2003	26	152
2004	21	173
2005	15	188
2006	12	200
2007	13	213

出所：教育部公表資料（2001－2007年）

## （2）ソーシャルワーク教育課程のカリキュラム

中国のソーシャルワーク教育課程のカリキュラムは2004年中国教育部高等社会学学科教育指導委員会が教育部の高等教育司の委託を受けてまとめられたものである。1986年国家教部は北京大学、中国人民大学、吉林大学等の高等教育機関に社会

工作と管理学科を設置することに同意し、各校も中国大陆で学生募集をはじめ、社会工作教育課程の教育が始まった。それから10年あまりの社会工作課程教育を振り返るとその発展は決して速くはなかった。しかし、カリキュラムの設定はいち早く整備する必要があったものから2004年ソーシャルワーク教育課程のカリキュラムが作られたのである。

ソーシャルワーク教育機関のカリキュラムの内容は社会工作概論、ケースワーク、グループワーク、コミュニティワーク、コミュニティオーガニゼーション、社会政策概論、現代社会福祉思想、社会保障概論、社会学概論、社会調査研究方法、社会心理学等の科目から構成され、それぞれの科目の基本的な要求が定められている。

## 3. 社会工作者（ソーシャルワーカー）資格制度

中国におけるソーシャルワーカー資格制度は2006年9月に施行された「社会工作者<sup>1</sup> 職業レベル判定暫定規則」及び「準社会工作者、社会工作者職業レベル試験実施方法」によって運営されている。「社会工作者職業レベル判定暫定規則」によるとソーシャルワーカー資格は具体的に①準社会工作者（ジュニアソーシャルワーカー）②社会工作者（ソーシャルワーカー）③高級社会工作者から構成されている。試験資格要件は次の表の通りとなっている。

<sup>1</sup> 社会工作者はソーシャルワーカーを指す。

	準社会工作者	社会工作者	高級社会工作者
試験資格要件	(1) 高校あるいは専門学校卒の学歴で、4年間の社会工作経験を持つもの (2) ソーシャルワーク専門の短期大学卒の学歴で、2年間の社会工作経験を持つもの (3) ソーシャルワーク専門の4年制大学のその年の卒業生 (4) その他専門の短期大学卒の学歴で、4年間の社会工作経験を持つもの (5) その他専門の4年制大学卒及びそれ以上の学歴を持ち、2年間の社会工作経験を持つもの	(1) 高校あるいは専門学校卒の学歴で、準社会工作者の資格証書を取得した後6年間の社会工作経験を持つもの (2) ソーシャルワーク専門の短期大学卒の学歴で、4年間の社会工作経験を持つもの (3) ソーシャルワーク専門の4年制大学卒の学歴で、3年間の社会工作経験を持つもの (4) ソーシャルワーク専門の修士学位を取得し、1年間の社会工作経験を持つもの (5) ソーシャルワーク専門の博士学位を取得したもの (6) その他専門の短大卒の学歴を持つ場合、社会工作経験年数の要件がそれに応じて2年間プラスされる。	今のところ特に具体的な判定基準が定められていない。今後別に設ける予定である。

試験に合格した準社会工作者及び社会工作者は人事部が統一的に「中華人民共和国社会工作者職業レベル判定証書」を授与することになっている。準社会工作者及び社会工作者は民政機関に登録を行い統一的に管理される。2008年6月には第1回目の試験が行われ全国で14万くらいの人を受験しおよそ2万5千人が試験に合格したとされる。

#### 4. 中国におけるソーシャルワーク教育が直面する課題

- (1) ソーシャルワーク教育機関の量的発展は早いですが質的保障が課題となっている。歴史的に見ると多くのソーシャルワーク教育課程は社会学学科に所属しており、ソーシャルワーク学科と命名した学科は非常に少ない。さらに新しく増設された教育課程は歴史学科、法律学科、社会科学系の学科に所属されているのが普遍的である。多数の大学ではソーシャルワーク教育課程の設置を優先したため、他の学問を専門とする多くの教員が教育を担当せざるを得なかった。また、欧米、香港、台湾から帰国した教員の場合、専門的な知識はあるものの中国の実情と結びつけた実務経験を持っていないため、教育の質的保障が難しい。2009年2月中国教育部は北京、上海の一部の大学のソーシャルワーク教育課程が教育の質を保障できないと判断され、これらの学科の学生募集停止を命じたことがその象徴ともいえる。
- (2) ソーシャルワーク教育機関のカリキュラムに統一性が欠けているとともに、テキスト、参考資料などが不足している。中国ソーシャルワーク教育協会が中心にソーシャルワーク教育課程のカリキュラムを作ったが、あまり拘束力がなく必ずしもすべての大学で統一した基準を適用しているわけではない。現在出版されているテキストはすべて4年制大学を対象としたもので、中国の事例蓄積と運用が比較的少ない。短期大学などのテキストはさらに欠乏しており、教育ニーズを満たしていないのが現状である。
- (3) ソーシャルワーク教育機関から派遣される実習生を受け入れる施設の確保及びスーパービジョンなどが課題となっている。中国におけるソーシャルワーカー教育において実習はウィークポイントである。現在実証的研究が遅れているため、中国におけるソー

シャルワーク教育は社会保障、社会政策等の理論的研究に限られており、学生の実務能力を養成することを軽視している。そのため、次のような問題が存在する。まず、実習時間の確保が難しい。次に、長期に安定した実習先の提供ができていないため、学生が実際の業務に関わっていない。その次に、現場においてソーシャルワークの人材が極めて少ないため、スーパービジョンを行うことができる施設が少ない。最後に実習教育経費が保障されていないため、実習目標に到達することが難しい。

- (4) 資格制度ができたものの社会的認知が低く、ソーシャルワーカーの受け皿の欠乏等が課題となっている。理論的には民政機関、様々な福利機構、NPO、NGO等その受け皿は豊富であるはずだが、これらの機関は公務員制度を適用しているとともに行政機構改革により人員の削減のためこれらの機関に就職することは非常に難しい。たとえ少人数の採用があっても一部の名門大学が独占しているのが現状である。そのため卒業生の就職状況は楽観的ではない。また、継続教育を行う教育機関が少ないため、在職のソーシャルワーカーの研修、既存の社会福祉関係機関従事者の教育が課題となっている。
- (5) ソーシャルワーク関連の法律の早期の整備が必要である。2006年9月に「社会工作者職業レベル判定暫定規則」及び「準社会工作者、社会工作者職業レベル試験実施方法」ができたものの、まだ実体法の成立まで至っていない。ソーシャルワーカー関連法制、ソーシャルワーカーのポストの設置等を含めた制度建設にもっと力を入れるべきである。

#### 5. おわりに

中国におけるソーシャルワーク教育はようやく本格的なスタートを切ったばかりで、まだその理念・理論などの体系化は不十分である。また、ますます複雑多様化していく社会問題の調整・解決に必要な人材を養成するためには理論だけに偏重している現状から脱却する必要がある。そのため、中国の様々な社会的ニーズに対応するための実証的研究を活発化させ徐々に蓄積を図っていく必要があると思われる。

## 参考文献

- 1) 教育部高等教育司著「社会工作専門課程教育基本要求」高等教育出版社2004年6月
- 2) 沈黎著「2008年全国社会工作者資格試験状況分析」『社会工作—中国特色社会工作論壇』2008年第7号上 4頁～5頁
- 3) 張蓉蓉著「新しい民間社会工作の專業化發展問題に関する研究」『貴州大学紀要（社会科学版）』第25卷第6期 2007年11月 106頁～118頁
- 4) 王瑞華著「中国社会工作教育發展が直面した若干の問題及びその解決対策」『集美大学紀要』第6卷 2005年12月 27頁～31頁
- 5) 劉夢著「中国社会工作教育者はどのように社会工作の專業化の挑戦に対応すべきか」『中華女子学院紀要』第19卷第6号 2007年12月
- 6) 安徽大学社会学科顏翠芳著「養成課程から卒業後の進路：我が国の社会工作教育におけるいくつかの問題についての考察」『社会工作—社会工作教育』2008年第7号
- 7) 中国青年政治学院社会工作と管理学科 史柏年「新しい世紀における中国社会工作教育が直面した選択」北京科学技術大学紀要（社会科学版）第20卷第1号2004年3月
- 8) 馬震越、周紹賓著「社会工作教育課程のいくつかの問題についての研究」『西南農業大学紀要（社会科学版）』第4卷第1号 2006年3月
- 9) 肖萍著「社会工作実習教育のモデルの本等についての検討—資源概念の導入—」『社会学研究』2006年第3号
- 10) 王寅著「我が国の社会工作教育の困難と解決策」『連運港師範高等専科学学校紀要』2006年3月第1号
- 11) 王沢淮著「中国民政社会工作教育發展の發展について」長沙民政職業技術学院紀要 第12卷第4期 2005年12月
- 12) 張瑾著「職業化背景における中国社会工作教育の發展についての更なる考察」労働組合論壇 第13卷第2期 2007年3月